

# 特定非営利活動法人 ACE

2014 年度

事業計画、予算計画、役員

[期間：2014 年 9 月 1 日～2015 年 8 月 31 日]



## 2014年度事業計画（2014年9月1日～2015年8月31日）

### ＜今年度の全体方針＞

1. インド、ガーナの現地プロジェクトで確実に成果を上げ、救出する児童労働者数を増加させる。現地プロジェクト費の増加に伴い、その財源確保にも組織全体で取り組む。
2. 「ピース・インド プロジェクト」実施地ナガルドーティー村において、企業と連携して持続的なコットンの栽培に取り組み、収穫されたコットンを原料に使った商品開発を進める。これにより、新たなソーシャルビジネスのモデルを確立する。
3. 「スマイル・ガーナ プロジェクト」の活動地で栽培されたカカオを原料に使用したフェアトレード・チョコレートの開発と販売を、企業との連携で継続し、発展させる。将来的に継続してカカオの調達量を増やすとともに、プロジェクト地域を拡大するための財源を捻出できる仕組みづくりや、新たな企業の巻き込みにも取り組む。
4. 2015年に国連で採択される新たな国際開発目標の中に、児童労働の撤廃が含まれるよう、児童労働ネットワークを通じたアドボカシー活動を行う。
5. 経営面においては、安定的・継続的な財源確保を最優先課題とし、マンスリーサポーター、会員等の継続的な支援の獲得に注力する。
6. 組織面においては、児童労働撤廃に向けて最大限の成果を生み出すために、スタッフ、インターン、ボランティア等、個々人の強みが活かされ、力が発揮される組織作りに取り組む。
7. 2014年のノーベル平和賞を「児童労働に反対するグローバルマーチ」代表のカイラシュ・サティヤルティ氏が受賞したことを受け、ACE設立のきっかけとなった氏との関係を活かした活動を、可能な範囲で年度内に行う。

# 1. 子ども支援事業

[担当：成田、近藤、白木]

事業の目的：児童労働から抜け出し、適切な教育の機会を得て権利を回復する子どもを増やす

## (1) 年度方針

- ① ガーナ、インドで新たに「スマイル・ガーナ プロジェクト」、「ピース・インド プロジェクト」を実施するそれぞれの村で、プロジェクトへの理解を広め、村の住民、リーダーや行政機関等による協力体制をつくる。
- ② 昨年度プロジェクト実施期間が終了した両プロジェクトの村でフォローアップを行い、支援が終了した後も住民が自立的に子どもの就学徹底と児童労働のない村づくりに取りくんでいけるようにする。
- ③ 現地での活動の成果や意義をより広く周知するため、国内での他事業と連動しながら、積極的に情報発信をする。

## (2) 活動計画

- ① スマイル・ガーナ プロジェクト(新規およびフォローアップ)

活動地域	ガーナ アシヤンティ州アチュマ・ンブニユア郡 1) プロジェクト実施 4 村(カロンゴ、ジュレソ、ンスオテム、タノドゥマセ) 2) フォローアップ 4 村 (:クワベナ・アクワ、パソロ、ウルベグ、アナンス)
実施期間	1)、2)とも 2014 年 9 月～2016 年 8 月(予定)
主な受益者	1) 学齢期の子ども約 5,500 人、約 1,200 世帯、人口 8,600 人 2) 学齢期の子ども約 2200 人、約 570 世帯、人口 3800 人
活動内容	子どもの保護と就学の徹底、親や住民への意識啓発、子どもの教育環境と教育の質の改善、カカオ農家を含む住民の収入向上と相互扶助制度の構築、行政機関との連携強化

- ・ 新たに 4 つの村において、スマイル・ガーナ プロジェクトを開始する。主に、子ども権利保護委員会(CCPC)、子ども権利クラブ、PTA/学校運営委員会、ファーマービジネススクール、互助会などを組織し、その運営方法について指導、助言を行う。これまで使用していたプロジェクト車両の老朽化に伴い、新車を購入する
- ・ これまでプロジェクトを実施してきた 4 村(クワベナ・アクワ、パソロ、ウルベグ、アナンス)でのフォローアップを行い、必要に応じて助言を行う。
- ・ 現地の行政機関、および他の NGO や国際協力関係者との情報交換、アドボカシーを推進する。特にプロジェクト地域と他の地域を頻繁に移動、移住する人々(児童労働が最も起こりやすいのがこれらの人々)のフォローアップを行うための働きかけを行う。
- ・ 現地スタッフの増員と人身売買等課題対応のための訓練、報告書提出などのプロジェクト実施体制を強化する。
- ・ 2014 年 10 月、2015 年 6～7 月(予定)の年 2 回、現地モニタリングを実施する。モニタリングからの帰国後には、団体ウェブサイトやイベント、ドナーへの報告書にて、プロジェクトの成果や進捗を報告する。

② ピース・インド プロジェクト フォローアップ(継続及び新規)

活動地域	1)インド テランガナ州(前アンドラ・プラデシュ州)マハブナガル県ナガルドーティ村 2)インド テランガナ州(前アンドラ・プラデシュ州)マハブナガル県 2 村(マッデラバンダ村、タティクンタ村)
実施期間	1) 2014 年 7 月～2015 年 6 月(予定) 2) 2014 年 4 月～2018 年 3 月(予定)
主な受益者	1) 学齢期の子ども約 530 人、約 430 世帯、人口約 2000 人 2) 学齢期の子ども約 1,190 人、約 1,640 世帯、人口約 7,600 人
活動内容	1) 子ども・住民グループの能力強化や家庭訪問による子どもの就学徹底、学校との連携による教育環境の改善、職業訓練センターによる女子の自立支援、貧困家庭の親の収入向上支援、行政機関との連携強化 2) 親や住民の意識啓発のための集会・イベント開催、家庭訪問やブリッジスクールによる子どもの就学徹底、学校との連携による教育環境の改善、子ども・住民のグループづくり

- ・ 2010 年から活動しているナガルドーティ村では、フォローアップで住民グループが中心となつて子どもの問題解決に取り組んだり、女子や貧困家庭の親がより安定的に収入向上できるよう側面支援を行い、住民自身が子どもの権利を守り児童労働のない村づくりができるようにする。この財源は、収入向上支援で少額融資を受けた女子・親によるローン返済金の積立金を充当する。
- ・ 2014 年 4 月に活動を開始した 2 つの村では、児童労働による問題や教育の重要性について住民の意識を高め、コットン栽培などで働く子どもが労働をやめて就学できるようにする。また村のリーダーや住民、学校、行政機関などの連携強化、子どもや住民の組織などを行い、村での協力体制を整える。
- ・ 支援地域の拡大に伴い、資金確保や実施体制をさらに強化する。
- ・ 2014 年 10 月、2015 年 2 月、8 月の年 3 回、現地モニタリングを実施する。モニタリング後には、団体ウェブサイトや、イベント、ドナーへの報告書等にて、プロジェクトの成果、進捗を報告する。

③ 東日本大震災復興支援

- ・ 9 月に宮城県亘理郡山元町の子育て支援団体「夢ふうせん」の活動施設でリミック教室を開催する。
  - ・ また町の復興状況について把握しながら、同団体による子どもの遊び場づくりや親の子育て相談支援等の活動において、今後のニーズ等を確認し、イベント企画や外部のリソース紹介などの協力を行う。
- ※なお、復興支援としての活動は、2014 年度で終了する。

④ その他

- ・国際協力事業ガイドラインの改訂、事業評価マニュアルの作成

前年度から継続している「国際協力事業ガイドライン」の改訂、事業評価マニュアルの作成作業を進め、完成させる。

- ・ネットワーク活動

東日本大震災支援全国ネットワーク(JCN)、なくそう！子どもの貧困全国ネットワークへの参加を通じて、東日本大震災における被災者への支援活動や、日本の子どもの貧困対策に関する情報収集し、支援ニーズなどを把握する。

## 2. アドボカシー事業 [担当：召田、近藤、岩附]

事業の目的：児童労働が重大な子どもの権利侵害であり、持続可能な社会の発展を阻害する課題であるという世論を形成する。

### (1) 年度方針

- ① 児童労働や ACE の認知を高めるため、最近の消費者教育やフェアトレードへの関心の高まりを活かし、教材や映画『バレンタイン一揆』上映会を学校や教育機関で活用してもらえるよう積極的に働きかける。
- ② 児童労働に関する世界の最新情報を日本社会に広く周知させるため、世間の社会的な関心事と ACE の活動を関連づけて、マスメディアやオウンドメディアを通じて積極的に発信していく。
- ③ 2015 年 9 月に発表される「2015 年以降の開発アジェンダ(ポスト MDGs・SDGs)」やアフリカの開発に関連させ、児童労働撤廃の取り組みが進むよう、ネットワークや他団体との連携を通じて継続して働きかける。

### (2) 活動計画

- ① 講師派遣  
学校、自治体、団体への講師派遣を増やすため、消費者教育やフェアトレード、NPO と企業の連携等のテーマで講演してきた実績をウェブサイトなどで広く発信する。
- ② 児童労働を伝える映画、教材、書籍等の普及
  - ・ 映画『バレンタイン一揆』の自主上映会の普及を継続するほか、DVD を製作し販売する。
  - ・ コットンとチョコレートをテーマにした新教材をそれぞれ 12 月に完成させる。9 月から 10 月にかけて消費者や教員、企業向けに教材を使ったワークショップを実施する。
  - ・ カカオの児童労働に関する書籍(著:白木)を出版し、出版社や書店と協力しながら普及する。
- ③ キャンペーン、ネットワークを通じたアドボカシー  
各種ネットワークと協働で行うキャンペーンを通じて、児童労働や ACE の活動に対する認知度を高める。

#### 【主なキャンペーン】

- ・ 「愛のチョコレートキャンペーン」(主催:チョコレート・アライアンス)【1～2 月】  
生産者や環境を大切にしたフェアトレード等の「愛のチョコレート」を広めるため、「もうひとつのチョコレート展」の展示企画を、フェアトレードタウンをめざす都市で開催(予定)。フェアトレードチョコレートを販売するマーケットやワークショップなどの同時開催も促進していく。
  - ・ 「ストップ！児童労働 キャンペーン 2015」(主催:児童労働ネットワーク)【1～6 月】  
約 40 団体(NGO、労働組合、企業等)で協働し、児童労働の認知向上、解決に向けた行動促進、政府の取り組み強化を目指したキャンペーンを展開する。「児童労働をなくそう」の意思を表明する写真アクション、署名活動、賛同団体によるイベント開催を予定。
- ④ マスメディアや各種媒体を通じた情報発信  
児童労働の現状や ACE の取り組みを主要メディア(テレビ、ラジオ、新聞、雑誌)で取り上げてもらうため、ACE の活動スケジュールと、時節や社会情勢に合わせた話題づくりを行う。そのため、メディアとの関係構

築や新規メディアの発掘も行う。その他、雑誌等の媒体での連載を通じて、継続的に情報を発信する。

#### 【メディア発信の主なテーマ・キーワードとスケジュール】

- 9月～10月 メディアリストの整理と新規にアプローチするメディアの候補探し  
11月～2月 「バレンタインデー」(キーワード:カカオ、チョコレート、フェアトレード)  
3月～5月 「コットンの日」(キーワード:コットン、インド、オーガニック、フェアトレード、エシカル)  
6月～7月 「児童労働反対世界デー」

#### 【記事の連載】

日本児童図書出版協会発行「こどもの本」、富士国際旅行社機関紙「いい旅いい仲間」

- ⑤ インターネットを通じた情報発信(ウェブサイト、メールマガジン、SNS など)  
児童労働に対する関心を高めるため、児童労働がビジネスリスクになる可能性や現地の状況などを、日常的に団体ウェブサイトやメルマガ、SNS に掲載、投稿する。
- ⑥ 調査研究・政策提言  
各種ネットワーク等を通じて、情報収集や調査研究を行い、政策提言につなげる。
- ・ 2015年以降の開発目標(ポスト MDGs、SDGs)の達成目標や指標に児童労働の撤廃が織り込まれるよう、主に児童労働ネットワークを通じて日本政府に働きかけを行う。また、他団体と連携して情報収集を行う。
  - ・ 子どもの貧困対策基本法に児童労働(子どもの就労)への対策が盛り込まれるよう、子どもの貧困ネットワークを通じた活動とも連携していく。

#### 【参加ネットワーク】

児童労働ネットワーク(運営委員、事務局)、チョコレート・アライアンス(コアメンバー)、市民ネットワーク for TICAD(世話人)、人身売買禁止ネットワーク(JANTIP)、社会的責任に関する円卓会議「地球規模課題への参画」ワーキンググループ フォローアップ会合、児童労働に反対するグローバルマーチ、JANIC 広報ワーキンググループ(コアメンバー)、開発教育協会(DEAR)(評議員)

# 3. 啓発・市民参加事業 [担当：山下、召田、岩附]

事業の目的：児童労働問題を知った個人・組織が、児童労働をなくすアクションの担い手になるように働きかけ、ACE の活動を支える支援者を増やす

## (1) 年度方針

- ① 「そのこ」の未来キャンペーンの実施を通じて、児童労働についての啓発とアクションへの参加の機会を増やす。
- ② マンスリーサポーター等の継続的な支援者やアクションの担い手を増やすために、イベント開催や出展、グッズ販売等の機会を効果的に活用する。
- ③ グッズ販売については、企業・労働組合に働きかけ、販売機会の提供や大口・組織単位の購入増加をめざす。

## (2) 活動計画

- ① 主催イベントの開催
  - ・ 児童労働の現状やACEの取り組みを伝える機会として、活動報告会や各種セミナー、映画上映会などを開催する。直接メッセージを伝えることにより、ACEの活動への理解を促し、共感の輪を広げる。

### 【主な主催イベント】(予定)

- 10月18日:「そのこ」アンバサダーイベント(SHIBAURA HOUSE)
- 11月22日:ピース・インド プロジェクト活動報告会(総評会館)(総会と同時開催)
- 11月末:ゲストセミナー(場所未定)
- 2月予定:チョコレート関連のイベント(SHIBAURA HOUSE)
- 3月予定:映画「バレンタイン一揆」上映会+「そのこ」の未来キャンペーン説明会(ACE 事務所)
- 4月予定:映画「バレンタイン一揆」上映会+スマイル・ガーナ プロジェクト活動報告会(場所未定)
- 5月予定:学生向けイベント(場所未定)

- ② グッズ販売を通じた啓発、参加促進

- ・ チョコレート(11月～3月)  
「しあわせを運ぶ てんとう虫チョコ」、People Tree フェアトレードチョコレート、森永チョコレート<1チョコ for 1スマイル>(支援地で栽培されたカカオを使用)等を販売。商品を通じて児童労働やガーナの子どもの状況を伝え、活動への参加を促す。
- ・ その他商品  
コットンボール OC(オーガニックコットン)タオルハンカチ等の寄付つきグッズや、東日本大震災の被災地である宮城県亘理郡山元町で作られた商品などの販売を継続する。  
新商品として、「ピース・インド プロジェクト」実施地の女の子が刺繍したグッズの販売の開始に向け、準備をすすめる。

- ③ イベント出展、ボランティア活動の推進

- ・ 各地での国際協力・フェアトレード関連のイベント出展の機会を活用し、地域グループ、学生/社会人

チーム、企業や労働組合など支援者・グループの参加を促進する。また、出展を通じて、各地での ACE の認知度向上に努める。

- ・「しあわせを運ぶ てんとう虫チョコ」の包装や報告書発送等のボランティアを通じて、個人や組織単位での参加機会を提供する。

#### ④ 児童労働をなくすアクションの担い手を増やすための活動

- ・ 会員・マンスリーサポーター、支援者の獲得

講演やイベント参加、グッズ購入、ボランティア参加等の各種活動やメディア掲載などを通じて、ACE の活動や児童労働問題を知り、関心を持った個人や組織が、継続して ACE の活動に参加し、支援者になるよう働きかける。また、クラウドファンディングにより、現地プロジェクト資金を募る活動も行う。

- ・ 「そのこ」の未来キャンペーン

2013 年度(後期)に実施したキャンペーンを継続。6 月 12 日の「児童労働反対世界デー」にあわせて、谷川俊太郎さんの詩「そのこ」を通じ、児童労働への理解を深めるキャンペーンを実施する。ACE と共に、「そのこ」のメッセージを伝え、寄付を呼びかけるアンバサダーを募り、より幅広い層へと働きかける。

- ・ BAG TO THE FUTURE キャンペーン

古本、CD・DVD や、ブランド品、商品券等の物品提供を通じた寄付のプログラムをリニューアルし、幅広い個人・組織の参加を得られるよう、進化させていく。

- ・ 支援者、寄付の獲得などのファンドレイジングについては、広報・ファンドレイズチームを中心に、外部アドバイザーの支援を受けながら、目標達成に向けた詳細な計画を定め、その他事業や組織運営と連携しながら活動を実施していく。

#### ⑤ ネットワーク活動

- ・ NGO-労働組合国際協働フォーラムの合同企画委員としてフォーラムの活動に参加する。
- ・ また、フォーラムの課題別グループ「児童労働グループ」の事務局として、他の NGO や労働組合と連携し、展示ツールの制作や、メーデー等イベントへの出展、講師派遣等の企画調整・実施を行う。

# 4. ソーシャルビジネス推進事業

[担当：白木、成田、岩附]

事業の目的：児童労働のない、持続可能な社会のためのビジネスの在り方と企業の行動を促進する

## (1) 年度方針

- ① ACE 支援地域のカカオ、コットンを使った商品の製品化を企業との協働の実績を作りながら、アパレル業界及びチョコレート・カカオ業界へのインパクトを強める。これにより、児童労働のないエシカルビジネスを行う業界のステークホルダー・プラットフォームの構築につなげていく。
- ② 「子どもの権利とビジネス」、「ビジネスと人権」をテーマとしたメッセージ発信を強化し、アパレル業界及びチョコレート・カカオ業界以外においても、児童労働、子どもの権利に本業で取り組む企業を増やすことをめざす。

## (2) 活動計画

- ① ACE 支援地の原材料を使用したビジネスモデルの構築、業界・関係者への普及
  - ・ 「スマイル・ガーナ プロジェクト」実施地域で栽培されたカカオを使ったフェアトレードチョコレートの商品開発、販売において、製菓メーカーとの連携を継続する。社内への理解普及、広報等における連携も強化する。また、チョコレート・カカオ業界での児童労働への理解や取り組みを促進し、支援地で栽培されたカカオの調達量を増やしていくための新たな仕組みの構築を図る。
  - ・ 「ピース・インド プロジェクト」実施地域で栽培されたコットンを使った製品の商品化において、企業と協働してインド及び日本におけるステークホルダーとの調整、製品化、販売等を進める。
- ② 「インド・コットンスタディーツアー」の実施
  - ・ コットン・ファッション関連企業、児童労働問題やエシカルビジネスに関心を持つ企業を対象に、インドのコットン生産地域を視察するツアーを実施する。
  - ・ 目的:
    - 1) インドのコットン生産地域(ACEプロジェクト実施地域)を訪問し、コットン栽培および児童労働の現状や改善策について理解を深める。
    - 2) 興和との協働プロジェクトによる支援地産コットンの商品化への取り組みについて、オーガニックコットンの栽培支援や製品製造過程について理解を深め、児童労働のないエシカルな製品づくりについて考える機会をつくる。
  - ・ 日程:2014年10月26日-11月1日(予定)(5泊7日)
  - ・ 対象:コットン・ファッション関連企業、児童労働問題やエシカルビジネスに関心を持つ企業
  - ・ 定員:約10名
- ③ エシカルファッションカレッジの実施
  - ・ 2014年に引き続き、リー・ジャパン(株)との共催で「エシカルファッションカレッジ」を開催する。世界フェアトレード・デーとも連携し、5月9-10日(土・日)の2日間とする。イベントの企画・実施は、他の複数の

企業とも協働して行う。主な参加対象は消費者とし、モノづくりの裏側にある児童労働等の課題を発信し、関心を高め消費行動を変える機会とする。

- ・ イベント開催による波及効果として、アパレル業界が児童労働を解決すべき重要課題とする認識を高め、業界内のエシカル関係者が集うプラットフォーム構築をも図る。

#### ④ 企業を対象とした講師派遣、ステークホルダーエンゲージメントの推進

- ・ 企業のビジネスと児童労働に関する理解を深めるため、参加ネットワーク等も活用しながら、企業向けの講演やセミナー、ステークホルダーダイアログに、講師、有識者としてスタッフを派遣する。
- ・ CSR レビューフォーラム、経済人コー円卓会議日本委員会を通じて、企業との対話の場に参加し、ステークホルダーエンゲージメントの推進、質の向上に貢献する。
- ・ 上記機会を通じて、人権とビジネスを取り巻くグローバルな動向や現場の情報を提供していくほか、企業関係者のニーズや関心について情報収集する

#### ⑤ CSR コンサルティング等の企業向けサービス実施

児童労働を予防するサプライチェーンの構築、運用、人権や子どもの権利を尊重したビジネスの推進等をサポートするコンサルティングサービスを企業に提供する。

- ・ アパレル企業のサプライヤーのCSRレビューを実施し、マネジメントシステム構築・管理支援、社内外への普及支援を継続して行う

#### ⑥ ネットワーク活動、その他

- ・ 各種セミナーや研修に参加し、担当スタッフの能力強化を図る
- ・ 各種ネットワークに参加し、企業とNPOの連携、CSRに関する情報収集や理解促進に取り組む。
  - NGOと企業の連携推進ネットワーク(コアメンバー)
  - CSRレビューフォーラム(レビューアー)
  - 社会的責任向上のためのNPO/NGOネットワーク(会員)
  - CSRを応援するNPO・市民ネットワーク(メンバー)
  - 日本エシカル推進協議会(設立発起人)

# 5. 組織運営

[担当：岩附、白木、坂口]

管理部門の目的：各事業が円滑に行えるよう、人的、財政的基盤の強化を図り、管理する。

## (1) 年度方針

- ① 事業の実施と組織運営が円滑に行えるよう、会員やマンスリーサポーター、寄付者への対応を強化し、継続率を高めることで、財政基盤の強化につなげる。
- ② 職員残業の削減やワークライフバランスの改善、柔軟な働き方のシステムの構築など、安心して働きやすい環境づくりに取り組む。

## (2) 活動計画

### ① 会議等の業務

#### 1-1 通常総会の開催

日時:2014年11月22日(土)

会場:UAゼンセン会議室

- (議題)
1. 2013年度(後期)事業報告(案)・決算(案)について
  3. 2014年度役員、評議員の選任について
  4. 2013～2016年 中期戦略について
  5. 2013年度(後期)の事業・予算計画について

#### 1-2 理事会の開催

ACE事務所会議室にて、毎月1回程度理事会を開催し、財政状況を含む組織運営について協議、決定する。

#### 1-3 評議員会の開催

- ・ 評議員会を開催し、事業内容、資金調達、組織運営についてアドバイスをもらう(3月)。

### ② 会員、サポーター、支援者業務

- ・ 各事業、及びキャンペーン等を通じて、新しい支援者層の拡大、獲得に取り組む。
- ・ 会員、マンスリーサポーターの入会、継続、退会等に伴う業務を行う。会員継続に関する連絡は8月に行う。
- ・ 毎月1回ミーティングを行い、手続きが滞りなく完了するよう、フォローの連絡を行い、クレジットカードの洗い替えシステムの導入も検討する。また、退会者について分析し、継続を高めるための必要な対策をとる。
- ・ セールスフォース ユーザ会を通じ、支援者管理(顧客管理システム)に関する課題や解決方法を他企業やNPOから学び、組織内での運用管理に役立て、支援者の増加やコミュニケーションの強化に活用する。

### ③ 資金調達、管理

- ・ 事業実施や組織運営に必要な資金を確保するため、各種助成金等の申請や報告を行う。資金の動き

について適切に管理し、常時必要な対策をとれるようにファンドレイズミーティングを開催する。

#### ④ 団体広報活動

- ・ 年次報告書と活動レポート(年 3 回)を発行し、支援者に届ける。

#### ⑤ 経理、人事・労務、総務に関わる業務

##### 5-1 経理業務

- ・ 日常的な現預金の動きについて記録、管理し、資金の動きを明確にする。
- ・ 法人税や消費税等の税務関連の業務を行い、10 月末までに税務署への申告を完了させる。

##### 5-2 人事、労務業務

- ・ 各種マニュアルを整備して業務の効率化を図り、残業の削減に取り組む。
- ・ 職員が安心して働けるよう、業務調整や柔軟な働き方のシステムの構築などに取り組む。
- ・ 人事制度、給与体系等について、整備、見直しを行う。

##### 5-3 総務業務

- ・ 東京都、国税局、法務局(11 月)に必要な届出を行う。
- ・ 昨年度東京都に申請した認定 NPO 資格の再取得のための審査に応じ、2015 年 4 月までの再取得をめざして手続きを進める
- ・ 適切な書類や備品の管理を行い、コストの削減や仕組みの改善などに適宜取り組む。
- ・ アカウンタビリティ 2012 更新版のセルフチェックを行い、アカウンタビリティ向上につなげる。

#### ⑥ 組織強化、職員の能力強化

- ・ 外部コンサルタントの協力を得て、職員のライフステージの変化に応じて柔軟に対応できる組織体制作りを進める。在宅勤務ができるよう IT 環境の整備も行う(Panasonic の助成金申請中)。
- ・ 戦略合宿(4 月)を行い、中長期的な活動方針や内容について議論し浸透を図るとともに、チームビルディングや学習の機会とする。
- ・ 各職員のニーズに応じて能力強化のための研修の参加や組織内での学習機会を設ける。
- ・ インターンを年 2 回(秋・春)採用し、活動の担い手を育成する。

#### ⑦ ネットワーク活動

- ・ 国際協力 NGO センター(JANIC)の理事と、日本 NPO センターの評議員を務め、NGO・NPO 界での最新動向を把握し、事業や組織運営に活かす。

●2014年度 年間イベントスケジュール(予定)

月	活動予定	活動の種類
10月	東京:グローバルフェスタ JAPAN(10月4-5日、日比谷公園)	出展イベント
	「そのこ」の未来キャンペーン・アンバサダー特別イベント(10月18日)	主催イベント
	名古屋:ワールド・コラボ・フェスタ(10月25-26日、栄・オアシス21)	出展イベント
	インドスタディーツアー(10月26日～11月5日)	現場ツアー
	写真家安田菜津紀氏のガーナ訪問、撮影(協力:オリンパス株式会社) (10月下旬～11月上旬)	現場取材
11月	年次総会、ピース・インド プロジェクト活動報告会(11月22日、UAゼンセン)	主催イベント
	福岡:地球市民どんたく(11月15-16日、アクロス福岡)	出展イベント
1月	「愛のチョコレートキャンペーン」(チョコレート・アライアンス)【1～2月】	キャンペーン
	「バレンタイン一揆 2015」(学生有志と連携)【1～2月】	キャンペーン
	企業との協働による ACE 支源地カカオを使ったチョコレート製品の発売	企業との連携
2月	チョコレート関連のイベント(2月上旬、SHIBAURA HOUSE)	主催イベント
	大阪:ワン・ワールド・フェスティバル(大阪国際交流センター)	出展イベント
	書籍「子どもたちにしあわせを運ぶチョコレートの話(仮)」の出版	出版
4月	東京:メーデー中央大会(4月、代々木公園)	出展イベント
	学生向けイベント(4月～5月、PeACE、インターン企画、主催)	共催イベント
5月	エシカルファッションカレッジ(5月9～10日、世田谷ものづくり学校)	共催イベント
	国際フェアトレード月間 名古屋:世界フェアトレード・デー名古屋	キャンペーン 出展イベント
6月	「児童労働反対世界デー」(6月12日)	主催イベント
	「ストップ! 児童労働 キャンペーン 2015」(児童労働ネットワーク)	キャンペーン
	「そのこ」の未来キャンペーン(6月～8月、予定)	キャンペーン
7月	仙台:せんだい地球フェスタ(仙台国際センター)	出展イベント
8月	企業との協働による ACE 支源地コットンを使った商品の発売	企業との連携

## 2014年度 活動予算書

(2014年9月1日～2015年8月30日)

特定非営利活動法人ACE

単位:円

科 目	2013後期予算	2013後期決算	2014予算	前年度比
<b>I 経常収益</b>				
<b>1 受取会費</b>	<b>4,508,000</b>	<b>3,810,000</b>	<b>4,508,000</b>	<b>118%</b>
正会員受取会費	1,890,000	1,710,000	1,890,000	111%
賛助会員受取会費	2,618,000	2,100,000	2,618,000	125%
<b>2 受取寄付金</b>	<b>37,811,170</b>	<b>39,803,781</b>	<b>49,554,900</b>	<b>124%</b>
ACE111	14,267,761	14,546,215	17,967,400	124%
チョコ募金	15,458,709	17,895,998	23,987,500	134%
コットン募金	6,184,700	6,222,417	7,600,000	122%
チャイルドフレンドリー募金	300,000	27,000	0	0%
東日本復興応援募金	550,000	95,251	0	0%
世界の子どもの権利基金	1,050,000	1,016,900	0	0%
<b>3 受取助成金等</b>	<b>9,900,000</b>	<b>6,587,888</b>	<b>9,150,000</b>	<b>139%</b>
受取民間助成金	9,900,000	6,587,888	9,150,000	139%
<b>4 事業収益</b>	<b>23,789,348</b>	<b>17,906,267</b>	<b>20,138,328</b>	<b>112%</b>
自主事業収益	23,789,348	17,906,267	20,138,328	112%
<b>5 その他収益</b>	<b>0</b>	<b>70,175</b>	<b>0</b>	<b>0%</b>
受取利息	0	1,517	0	0%
為替差益	0	19,868	0	0%
雑収益	0	48,790	0	0%
<b>経常収益計</b>	<b>76,008,518</b>	<b>68,178,111</b>	<b>83,351,228</b>	<b>122%</b>
<b>II 経常費用</b>				
<b>1 事業費</b>				
<b>(1) 人件費</b>	<b>23,127,200</b>	<b>24,392,723</b>	<b>21,687,663</b>	<b>89%</b>
給料手当	18,900,000	20,193,673	18,251,359	90%
法定福利費	3,010,000	3,093,344	2,462,904	80%
通勤費	1,150,000	1,093,750	923,400	84%
福利厚生費	67,200	11,956	50,000	418%
<b>(2) その他経費</b>	<b>37,742,906</b>	<b>30,009,101</b>	<b>42,563,642</b>	<b>142%</b>
海外事業実施費	17,836,900	15,622,281	24,247,530	155%
売上原価	3,621,854	3,517,236	4,686,030	133%
諸謝金	320,000	0	155,000	-
印刷製本費	1,466,477	964,802	1,078,170	112%
旅費交通費	6,873,960	3,411,362	4,292,000	126%
賃貸料	761,000	587,032	789,700	135%
外注費	1,163,775	784,221	1,588,950	203%
保険料	120,000	103,460	93,000	90%
会議費	55,000	21,310	0	0%
研修費	205,000	27,500	30,000	109%
諸会費	135,000	80,000	85,000	106%
広報広告費	100,000	0	0	-
通信費	472,340	400,867	492,450	123%
荷造運賃	894,600	847,357	1,140,000	135%
図書研究費	0	2,268	0	-
消耗品費	797,000	448,022	199,500	45%
什器備品費	0	0	100,000	-
水道光熱費	350,000	348,965	350,000	100%
地代家賃	2,100,000	2,245,176	2,571,430	115%
租税公課	470,000	429,000	614,882	143%
支払手数料	0	153,122	0	-
雑費	0	4,120	50,000	-
<b>事業費計</b>	<b>60,870,106</b>	<b>54,401,824</b>	<b>64,251,305</b>	<b>118%</b>

## 2014年度 活動予算書 (続き)

(2014年9月1日～2015年8月30日)

特定非営利活動法人ACE

単位:円

科 目	2013後期予算	2013後期決算	2014予算	前年度比
<b>2 管理費</b>				
<b>(1)人件費</b>	<b>10,048,800</b>	<b>8,497,105</b>	<b>10,151,562</b>	<b>119%</b>
役員報酬	0	0	0	-
給料手当	8,080,000	6,908,355	8,121,532	118%
法定福利費	1,290,000	1,066,210	1,175,030	110%
通勤費	650,000	482,820	825,000	171%
福利厚生費	28,800	39,720	30,000	76%
<b>(2)その他経費</b>	<b>5,089,612</b>	<b>3,358,702</b>	<b>5,581,659</b>	<b>166%</b>
諸謝金	218,500	180,000	718,500	399%
印刷製本費	402,000	286,345	835,616	292%
旅費交通費	30,000	73,875	270,000	365%
賃貸料	240,000	62,758	107,940	172%
外注費	68,040	68,040	420,000	617%
保険料	6,000	2,500	1,000	40%
会議費	100,000	85,883	50,000	58%
研修費	100,000	0	30,000	-
諸会費	35,000	17,200	97,200	565%
通信費	111,000	86,706	111,430	129%
荷造運賃	700,000	532,636	507,432	95%
図書研究費	20,000	10,368	20,000	193%
修繕費	50,000	0	20,000	-
消耗品費	202,000	106,332	200,000	188%
什器備品費	545,572	89,810	450,000	501%
水道光熱費	150,000	123,983	70,000	56%
地代家賃	900,000	797,682	771,429	97%
租税公課	83,000	73,400	73,000	99%
支払手数料	800,000	733,909	828,112	113%
管理諸費	178,500	0	0	-
為替差損	100,000	0	0	-
減価償却費	0	27,215	0	-
雑費	50,000	60	0	0%
<b>管理費計</b>	<b>15,138,412</b>	<b>11,855,807</b>	<b>15,733,221</b>	<b>133%</b>
<b>経常費用計</b>	<b>76,008,518</b>	<b>66,257,631</b>	<b>79,984,526</b>	<b>121%</b>
<b>当期正味財産増減額</b>	<b>0</b>	<b>1,920,480</b>	<b>3,366,702</b>	<b>175%</b>
<b>前期繰越正味財産額</b>	<b>4,840,722</b>	<b>4,840,722</b>	<b>6,761,202</b>	<b>140%</b>
<b>次期繰越正味財産額</b>	<b>4,840,722</b>	<b>6,761,202</b>	<b>10,127,904</b>	<b>150%</b>

## ■2014 年度 役員

理事： 岩附 由香 (代表)  
理事： 小林 裕 (副代表)  
理事： 白木 朋子 (事務局長)  
理事： 新谷 大輔  
理事： 安永 貴夫  
監事： 大石 貴子  
監事： 矢崎 芽生

(参考資料) 理事会へのアドバイスをを行う評議員は下記の通りを予定している。

### ■ 評議員

秋山 訓子 朝日新聞記者  
生駒 芳子 株式会社アートダイナミクス 代表取締役社長  
江森 孝至 連合総研 主任研究員  
小城 武彦 職業経営者  
奥津 雷三 会社員  
黒田 かをり 一般財団法人 CSO ネットワーク 事務局長・理事  
郷野 晶子 UA ゼンセン 国際局 局長  
坂本 文武 立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科 特任准教授  
桜田 高明 連合国際顧問・ILO (国際労働機関) 理事  
鈴木 宏二 団体職員  
藪田 綾子 株式会社クレアン 代表取締役  
長坂 寿久 元拓殖大学教授  
並河 進 株式会社電通 ソーシャル・デザイン・エンジン部 部長  
荻原 なつ子 立教大学社会学部 教授、認定 NPO 法人日本 NPO センター 副代表理事  
長谷川 真一 日本 ILO 協議会 専務理事  
初岡 昌一郎 姫路獨協大学 名誉教授  
樋栄 ひかる Ena Communication Inc. 代表取締役  
古谷 由紀子 サステナビリティ消費者会議 代表  
堀内 光子 文京学院大学大学院 特別招聘教授  
公益財団法人アジア女性交流研究フォーラム 理事長  
渡邊 智恵子 株式会社アバンティ 代表取締役  
NPO 法人日本オーガニック・コットン協会副 理事長